

平成 22 年度

近畿圏整備計画の実施
に関する状況

平成 23 年 10 月
国土交通省都市局

この文書は、近畿圏整備法（昭和38年法律第129号）第17条の3の規定に基づき、近畿圏整備計画の実施に関する状況について公表を行うものである。

近畿圏とは…

近畿圏整備法においては、福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県の区域を一体とした広域を「近畿圏」としている。

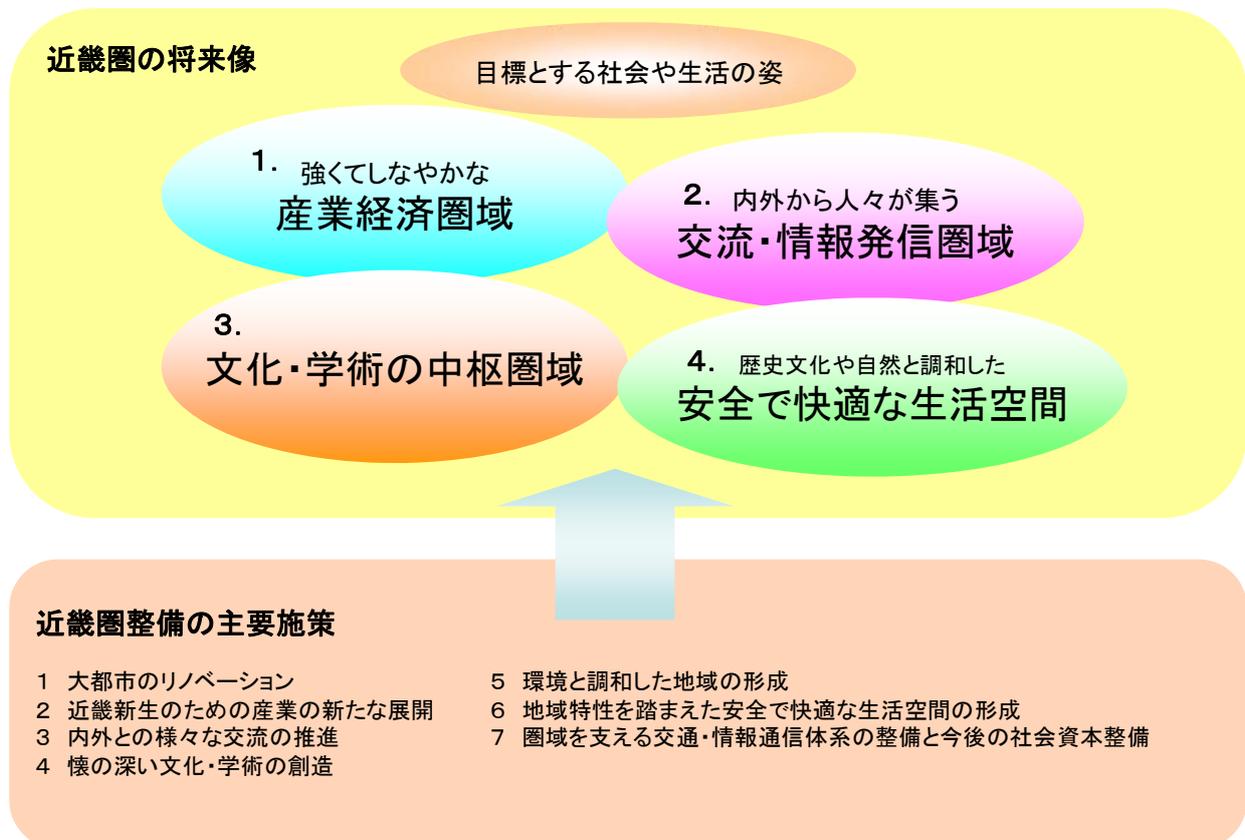
I 近畿圏整備計画

近畿圏整備計画（第5次）は、首都圏と並ぶわが国の経済、文化等の中心としてふさわしい近畿圏の建設とその秩序ある発展を図ることを目的とする近畿圏整備法（昭和38年法律第129号）に基づき、平成12年3月に策定された。

この計画の対象区域は、福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県であり、計画の期間は、おおむね15箇年間である。

また、この計画は長期的かつ総合的な視点から今後の近畿圏整備の方向を示すものであり、民間の諸活動に対しては誘導的役割を果たすものであり、関係行政機関及び関係地方公共団体に対しては、近畿圏の整備に関する諸計画及び諸施策の指針となるものである。

近畿圏整備計画(第5次)(平成12年3月)の概要

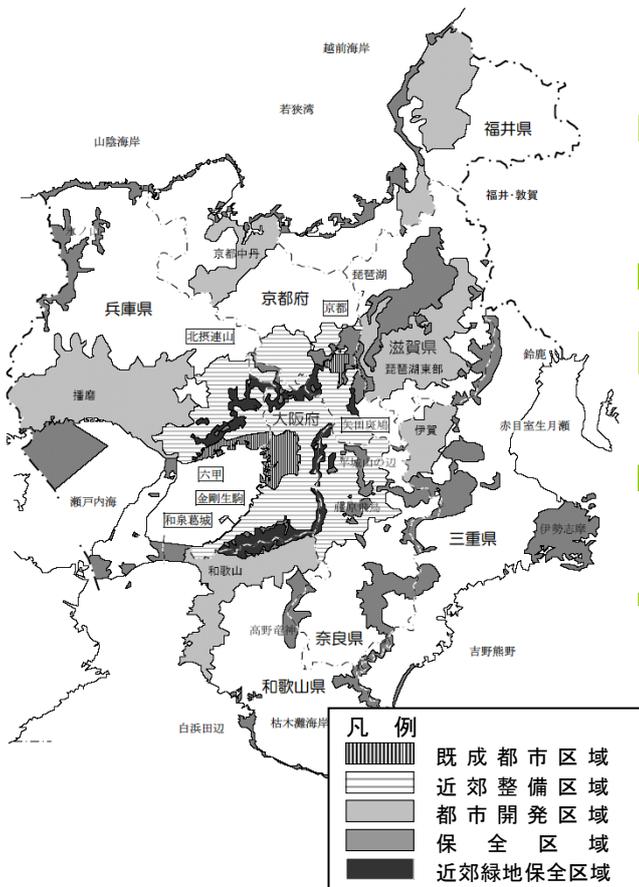


【近畿圏の政策区域】

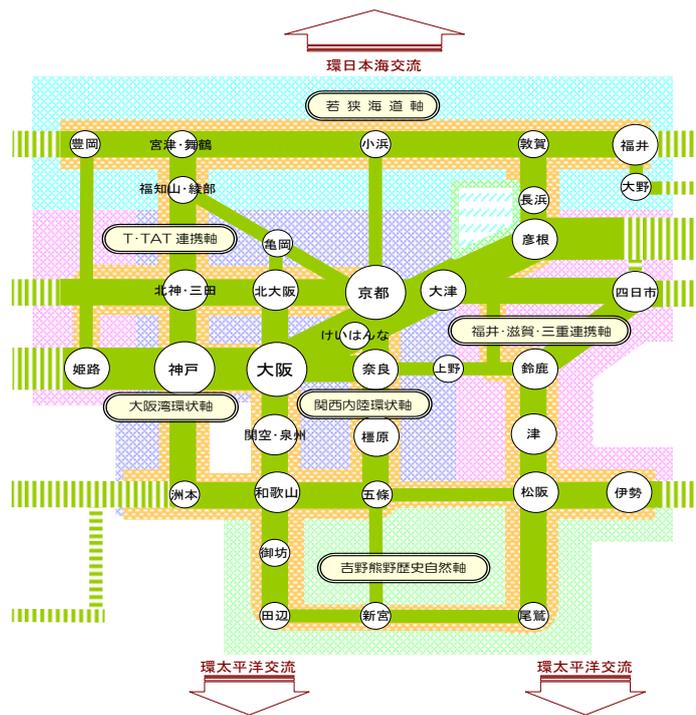
近畿圏整備法においては、近畿圏の建設とその秩序ある発展を図るため、「既成都市区域」、「近郊整備区域」、「都市開発区域」、「保全区域」といった政策区域を定めている（図表1）。

近畿圏は、高次都市機能、産業、文化、学術研究、自然等の個性を持つ都市・地域が圏域内に散在している。近畿圏整備計画（第5次）では、これらを「多核格子構造」でつなぎ、圏域全体にわたるネットワーク化により各都市・各地域の諸機能の圏域全体での共有・一体化を図ることにより、近畿圏全体の人々の生活と産業の活力の創出、再活性化を戦略としている（図表2）。

図表1 近畿圏の政策区域図



図表2 目指すべき圏域構造：多核格子構造



資料：近畿圏整備計画（第5次）より

Ⅱ 平成 22 年度における計画の実施状況

近畿圏整備計画において近畿圏が目標とする 4 つの将来像ごとに、計画の実施状況を概観する。

1. 強くてしなやかな産業経済圏域の形成

(目標)

『近畿圏は、京阪神の高次都市機能の充実と連携による競争力の強化、高度な産業技術、学術研究の蓄積等をいかした新産業創出や既存産業の高度化を図る。これによって、情報中枢性や起業力の低下等の諸課題を克服するとともに、今後の地域間競争や世界経済の激動に耐え、柔軟に対応し、人々に経済的な豊かさをもたらすことのできる「強さ」と「しなやかさ」を持った「産業経済圏域」の形成を目指す。また、これを通じて我が国全体の経済の活性化にも大きく寄与する。』

(状況)

鉱工業生産指数は、2008 年 9 月の世界的な金融危機の影響により大幅に低下し、2009 年に入り一旦増加したが、2010 年に入り、再び低下している（図表 3）。一方、近畿圏における新産業分野であるバイオ等医薬関連産業の出荷額は、着実に増加しているが、情報通信機器産業の出荷額においては 2 年連続で減少した（図表 4）。さらに、国際特許出願件数については、4 年連続で増加している（図表 5）。

(トピックス)

平成 22 年 10 月 12 日、敦賀港鞠山南地区国際物流ターミナルの本格運用が始まった。韓国をはじめ諸外国と近接しているなどの地理的優位性をいかして産業振興に寄与することが期待されている。

また、平成 23 年 3 月 27 日には阪神高速 8 号京都線が全線開通した。これにより京都東部方面から京都南部や大阪方面へのアクセス性が更に向上するとともに大阪・京都間における産業・物流・観光の交通軸として、役割が期待されている。



敦賀港鞠山南地区多目的国際物流ターミナル

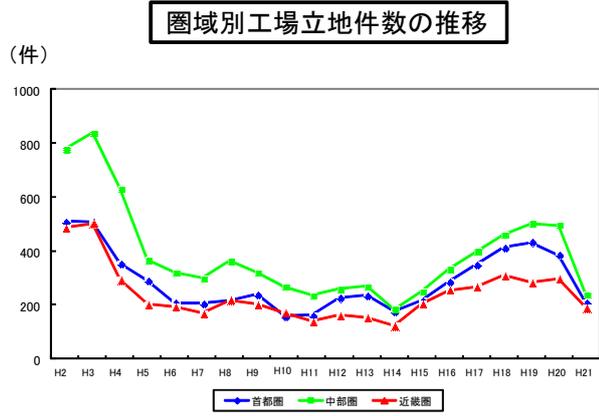
提供：福井県



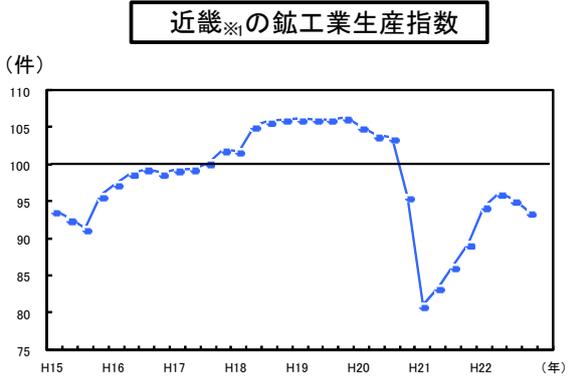
阪神高速 8 号京都線全線開通

提供：阪神高速道路(株)

図表3 工場立地・鉱工業生産指数の状況



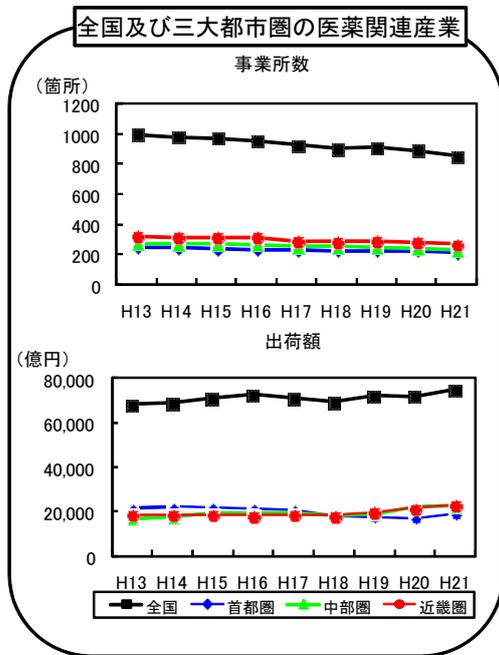
資料：経済産業省「工場立地動向調査」より国土交通省都市局作成



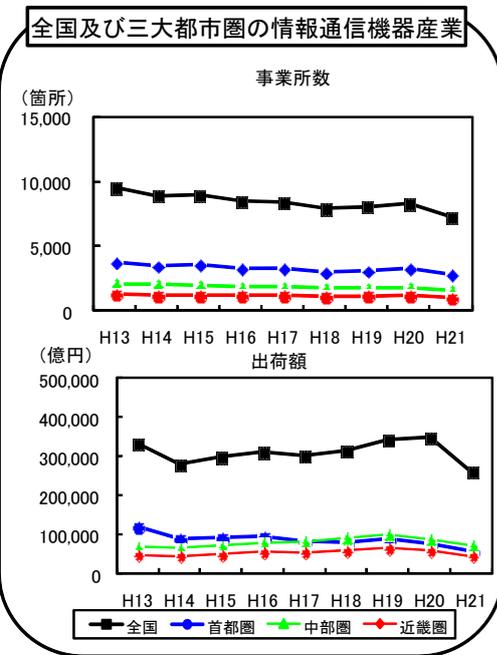
※1 福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府5県
 ※2 2005年を100とする。

資料：経済産業省「鉱工業生産指数」より国土交通省都市局作成

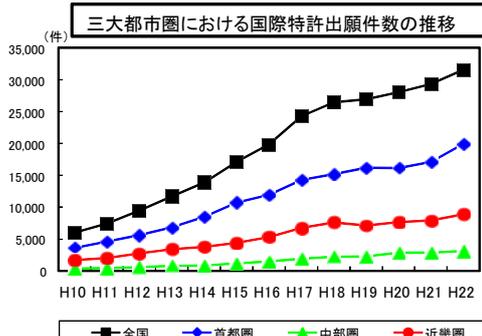
図表4 新産業成長の状況



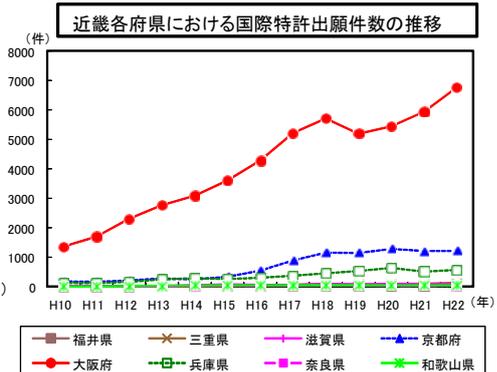
資料：経済産業省「工業統計調査」により国土交通省都市局作成
 注) 医薬関連産業は、「医薬品原薬製造業」、「医薬品製剤製造業」、「生物学的製剤製造業」、「生薬・漢方製剤製造業」、「試薬製造業」の合計。情報通信機器産業は、「情報通信機器器具製造業」と「電子部品・デバイス・電子回路製造業」の合計。



図表5 国際特許出願件数の状況



資料：特許庁「特許行政年次報告書」により国土交通省都市局作成



2. 内外から人々が集う交流・情報発信圏域の形成

(目標)

『近畿圏は、多様で個性的な資源をいかし、圏域が一体となって国内や世界に向けて積極的に情報発信するとともに、個人と個人・地域が会う集客交流、国際交流を推進する。これによって海外や国内の多くの人々が訪れ、にぎやかで活気にあふれる「交流・情報発信圏域」の形成を目指す。また、我が国における世界との交流の中心の一つとしての役割を担う。』

(状況)

関西国際空港においては、近年、外国人入国者数及び日本人出国者数の減少が見られるものの、依然としていずれも全国の約2割を占めており、我が国における主要なゲートウェイの一つとしての機能を担っている（図表6）。

国際会議の開催件数をみると、近畿圏全体では横ばいである一方、大阪府において、過去10年で最も開催件数が多くなるなど、国際交流の拠点としての進展がみられる（図表7）。

(トピックス)

平成22年8月6日、阪神港（神戸港、大阪港）は、京浜港とともに国際コンテナ戦略港湾に選定された。阪神港においては、関西国際空港とともに近畿圏、ひいては日本の成長を支える国際物流拠点としての発展が期待されている。

また、平成23年1月13日、京都市と観光庁は、訪日外国人旅行者の増加を目指して、共同プロジェクト「観光立国・日本 京都拠点」を開始した。訪日外国人旅行者に人気が高い京都の受入環境整備などを進めることにより、観光立国の実現に大きな弾みとなることが期待されている。



国際コンテナ戦略港湾に選定された阪神港

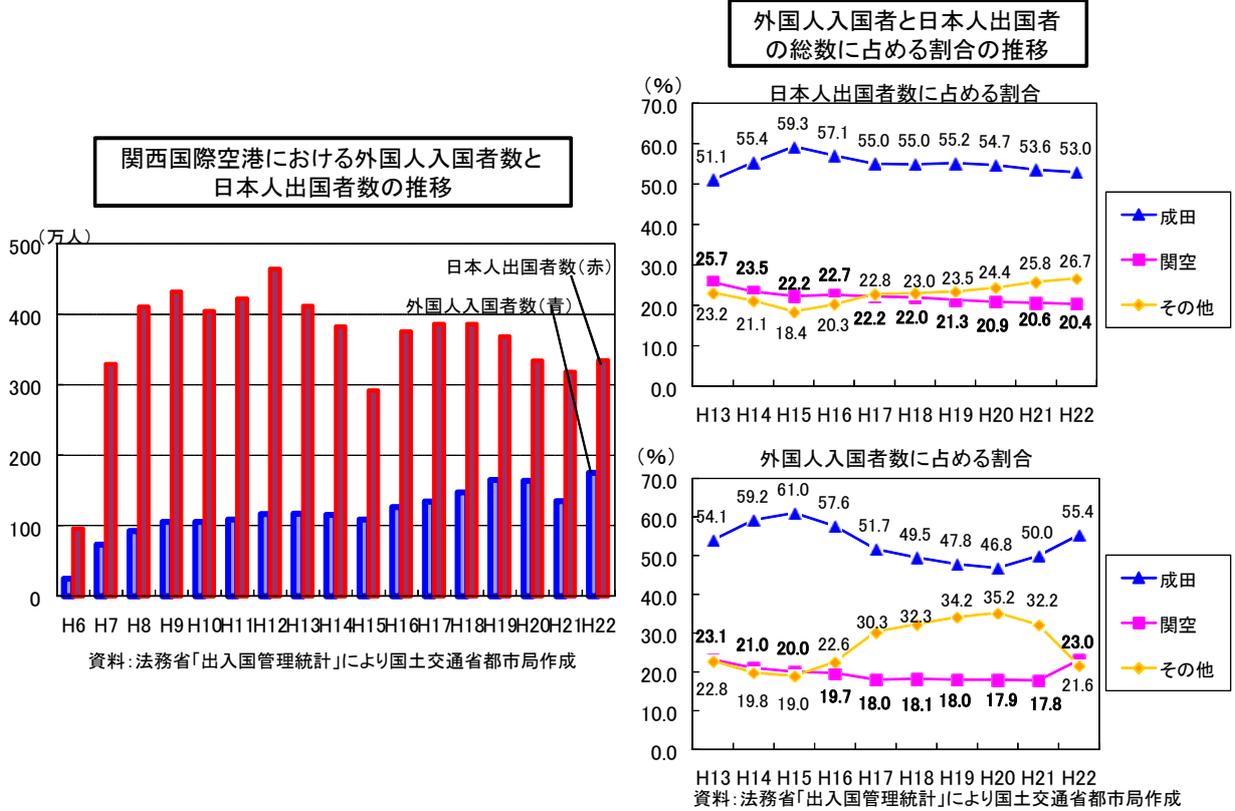
提供：近畿地方整備局



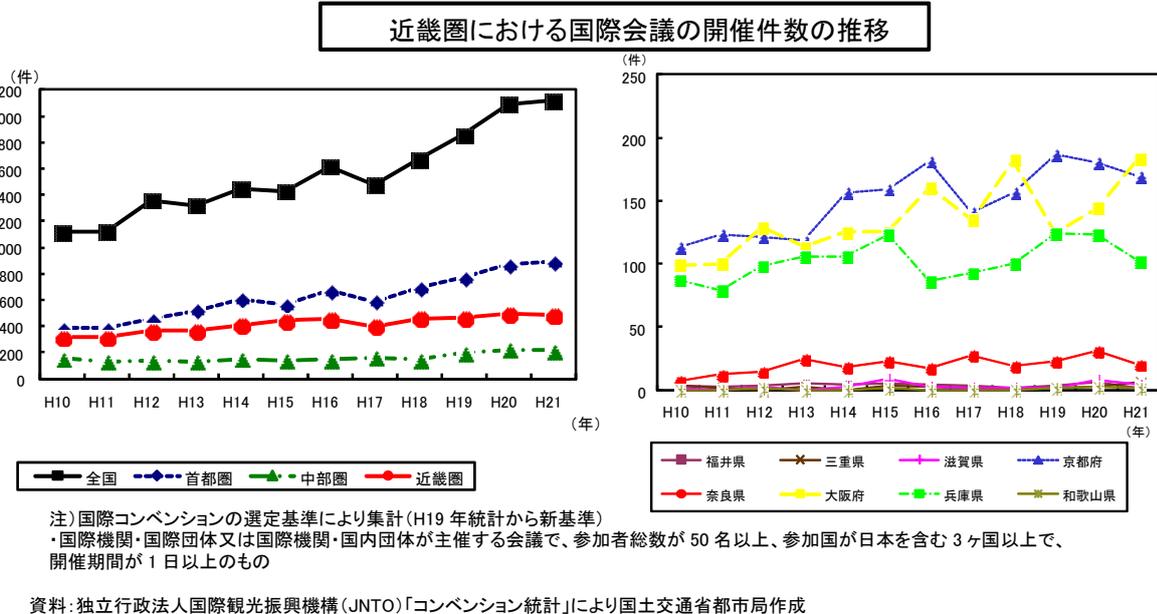
京都市と観光庁の共同プロジェクト
「観光立国・日本 京都拠点」

提供：京都市

図表6 外国人入国者数・日本人出国者数の状況



図表7 国際会議件数の状況



3. 文化・学術の中核圏域の形成

(目標)

『近畿圏は、学術研究資源をいかに新たな学術研究を推進するとともに、世界的な価値を有する文化財を始めとする歴史文化遺産を適切に保全・再生する。これによって、歴史文化の香りと学術の創造性にあふれ、人々に心の豊かさをもたらすことのできる「文化・学術の中核圏域」の形成を目指す。さらに、我が国において、新たな学術研究を先駆けて創造する役割や歴史文化の教育の場を提供し、さらには将来へと継承する役割を担う。』

(状況)

関西文化学術研究都市をはじめ研究所の立地件数は、1996年以降、毎年、増加している。(図表8)。

また、近畿圏は文化財等の歴史的資源を数多く有しており、我が国随一の貴重な歴史文化資産の蓄積を誇っている(図表8)。

さらに、近畿圏では、総じて大学進学率が高く、大学数については、ここ数年横ばいとなっている(図表9)。

(トピックス)

平成22年4月1日、京都大学はiPS細胞(人工多能性幹細胞)に特化した世界初の研究所である「iPS細胞研究所」を設置した。iPS細胞技術を駆使した病態解明などが進むとともに世界最高のiPS細胞研究拠点として機能し、幹細胞、再生医学分野をはじめとして基礎科学の発展に貢献することを目指している。

また、平成23年2月末現在、神戸市が進める神戸医療産業都市への進出企業が200社を突破した。このうち外資系企業は8ヶ国23社に上る。大阪北部の彩都ライフサイエンスパークや京都バイオシティ構想、滋賀県の長浜サイエンスパークとの連携を進めるなど、圏域全体の集積拠点の牽引役として役割が期待されている。



世界初のiPS細胞特化の研究所である
iPS細胞研究所

提供：京都大学iPS細胞研究所

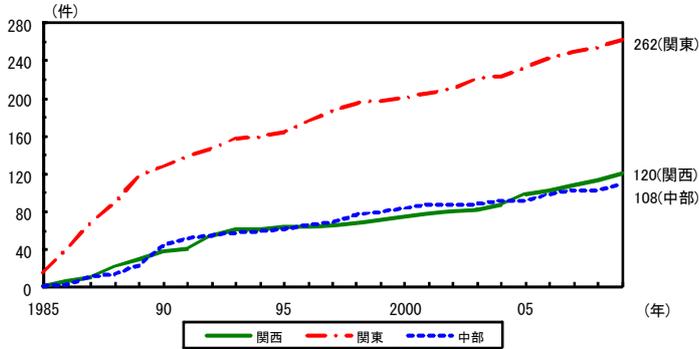


外資系企業の進出が進む
神戸医療産業都市

提供：神戸市

図表8 研究所の集積、豊富な文化財等歴史的資源の状況

研究所立地件数の累計推移



関西…福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
 関東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
 中部…長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

※調査対象:製造業、電気業、ガス業、減供給業に係る分野の研究所を建設する
 目的をもって、1,000 m以上の用地(埋立予定地も含む)取得(借地含む)されたもの

資料: 経済産業省「工場立地動向調査結果集計表」

ユネスコ世界遺産登録件数

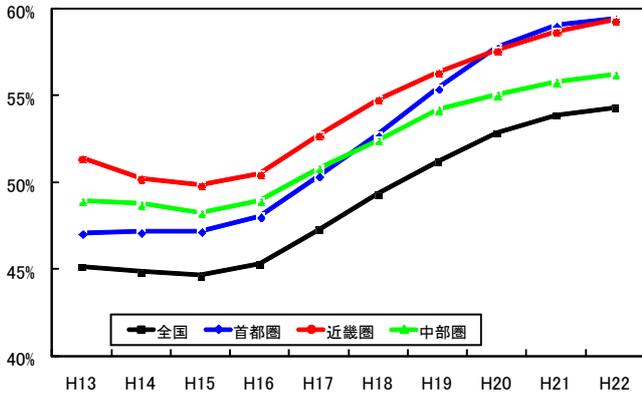
名称	登録年
1 法隆寺地域の仏教建造物	1993年
2 姫路城	1993年
3 屋久島	1993年
4 白神山地	1993年
5 古都京都の文化財	1994年
6 白川郷・五箇村の合掌造り集落	1995年
7 原爆ドーム	1996年
8 厳島神社	1996年
9 古都奈良の文化財	1998年
10 日光の社寺	1999年
11 琉球王国のグスク及び関連遺産群	2000年
12 紀伊山地の霊場と参詣道	2004年
13 知床	2005年
14 石見銀山遺跡とその文化的景観	2007年
15 平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—	2011年
16 小笠原諸島	2011年

(■は近畿圏)

資料: (社)日本ユネスコ協会連盟ホームページより国土交通省都市局作成

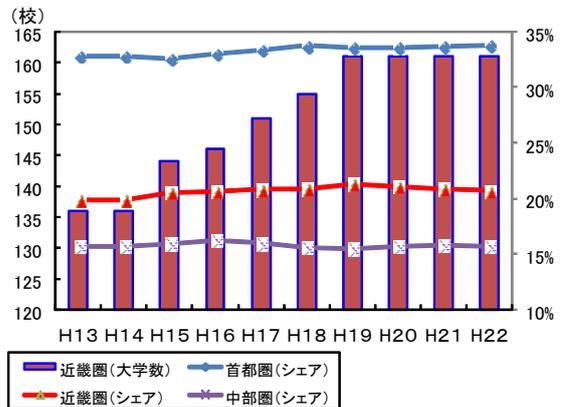
図表9 大学進学率と大学数の状況

圏域別大学進学率の推移



資料: 文部科学省「学校基本調査」より国土交通省都市局作成

圏域別大学数の全国シェアと近畿圏の大学数



4. 歴史文化や自然と調和した安全で快適な生活空間の形成

(目標)

『近畿圏は、歴史的風土、文化、自然と調和し安全で良好な居住環境を形成するとともに、自然の適切な保全と再生を図る。これによって歴史、自然が日常生活に溶け込み、「安全で快適な生活空間」の形成を目指す。』

(状況)

近畿圏における住宅の広さは、改善してきているが、全国平均を下回っている。また、通勤・通学等のピーク時の混雑率は、三大都市圏の中で最も低く、平成 21 年の混雑率が 127%となるなど、毎年、混雑緩和が図られてきており、快適さが取り戻されつつある(図表 10)。

琵琶湖では、南湖を中心に COD(化学的酸素要求量)が依然として高く、汚染改善を進めるなど、引き続き総合的な保全のための取組を進める必要が見受けられる(図表 11)。

(トピックス)

奈良、大阪の両府県を流れる一級河川大和川は、平成 22 年の水質調査で観測史上最もきれいな水質を記録した。水質を示す BOD(生物化学的酸素要求量)平均値(速報値)が初めてアユが生息できるとされる 3 ミリグラム以下となった。更なる浄化を目指して、官民挙げての浄化作戦に取り組んでいる。

また、平成 22 年 10 月 31 日、神戸市の阪神淡路大震災の復興シンボルとして整備されてきたみなとのもり公園(神戸震災復興記念公園)が全面オープンした。雨水貯留タンクなどの防災設備を備えた防災公園としての役割とともに震災で倒壊した建物の部材を使用したベンチを置くなど、震災を後世に語り継ぐ役割を持たしている。



水質改善が進む大和川

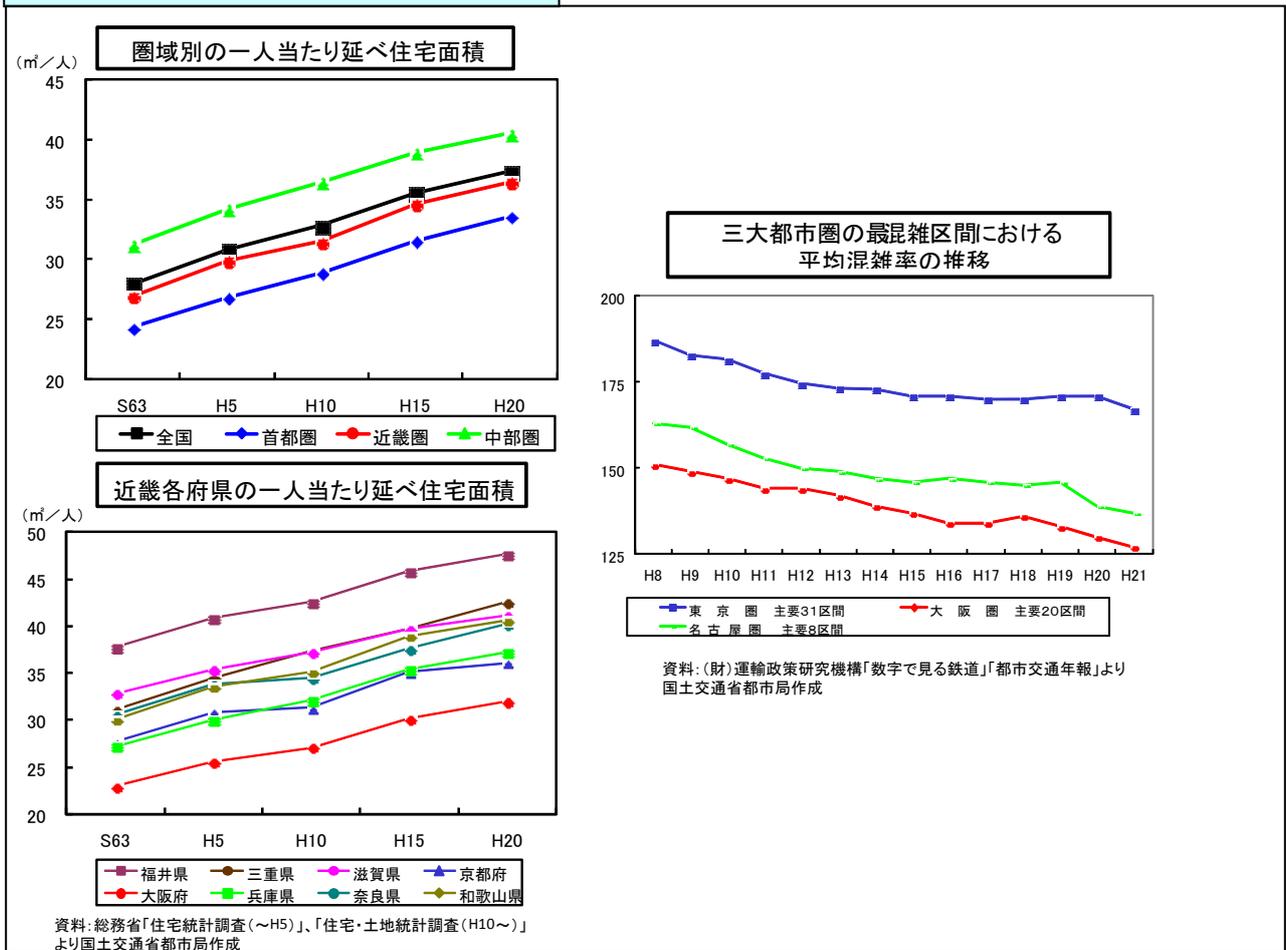
提供：近畿地方整備局



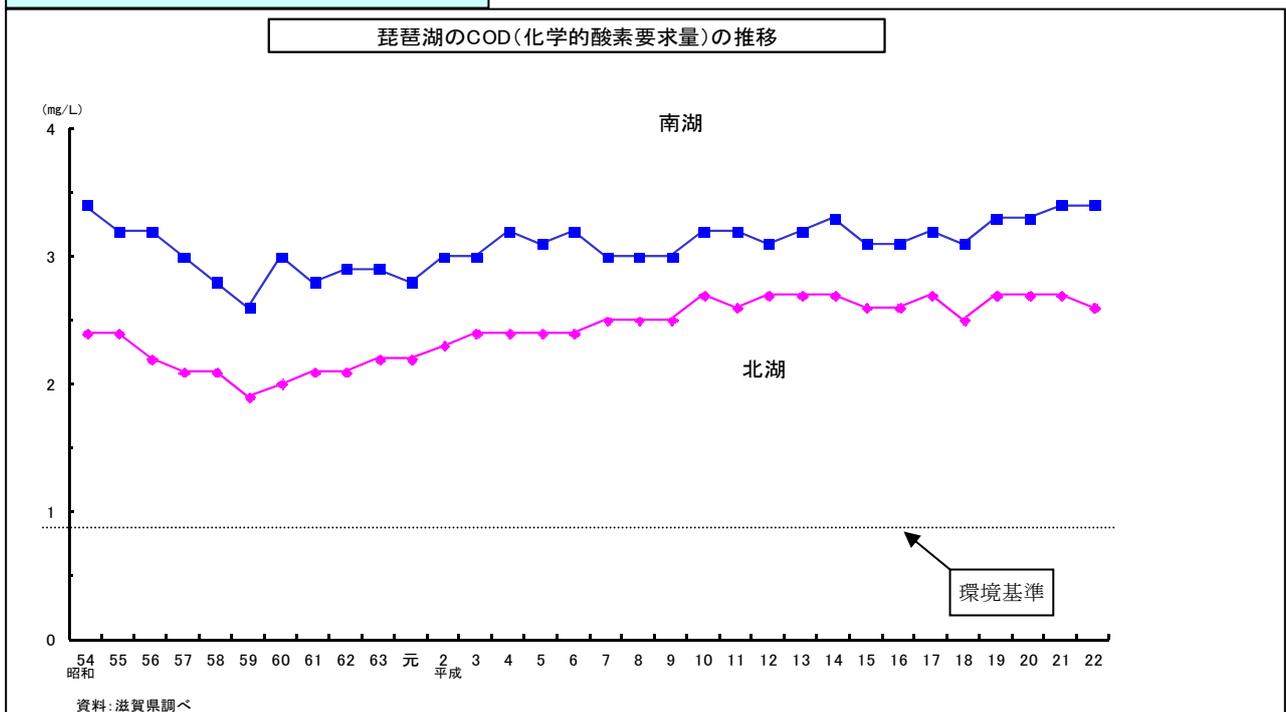
みなとのもり公園(神戸震災復興記念公園)

提供：神戸市

図表10 居住環境・通勤環境の状況



図表11 琵琶湖の水質の状況



資 料 編

(近畿圏整備に係る参考図)

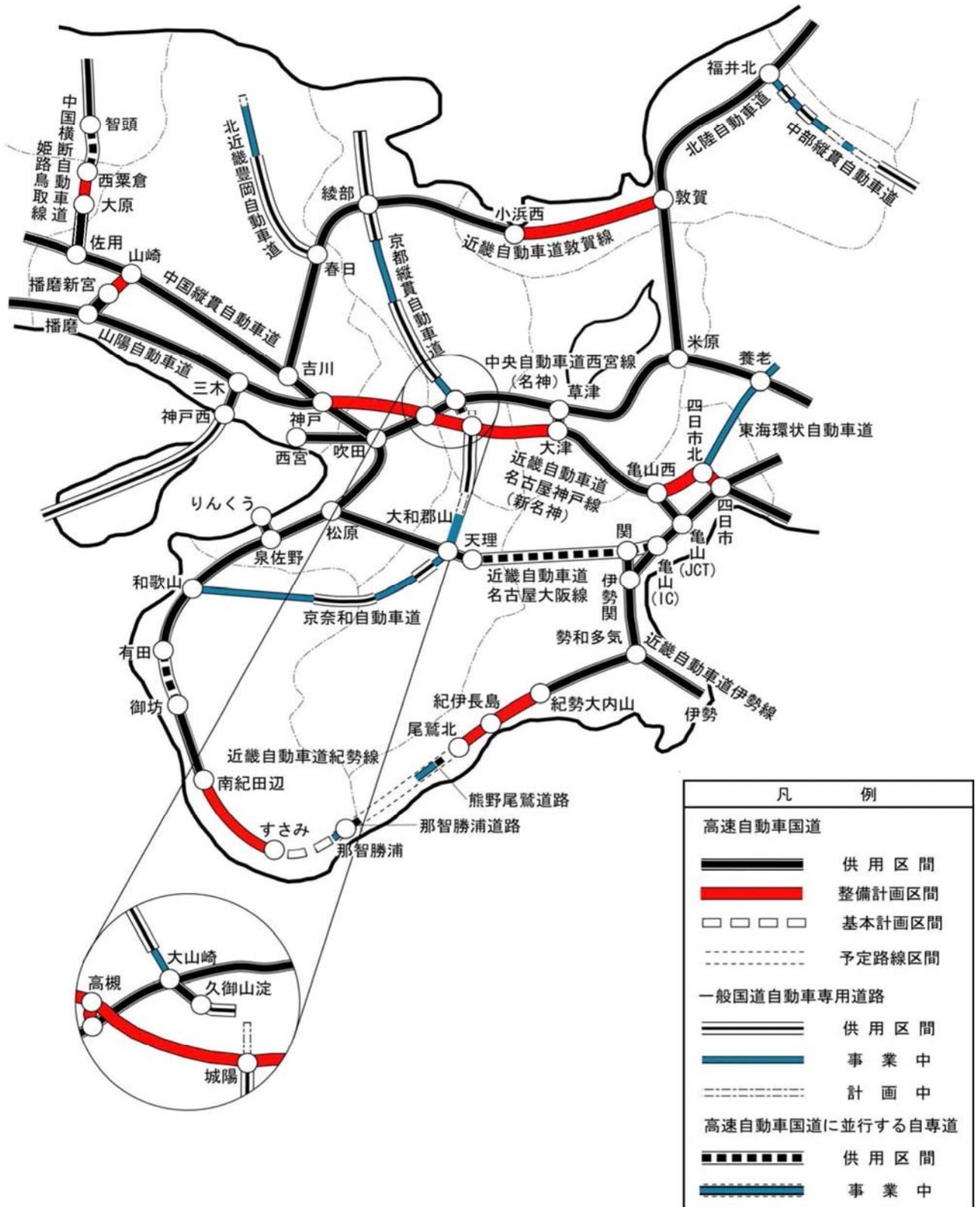
近畿圏における社会資本整備の状況

平成22年度末現在



1 道路の整備

(1) 高規格幹線道路



※ 平成22年度末時点。
 ※ 整備中のIC及びJCT名は仮称。
 ※ 事業中には着工準備中を含む。

(2)都市高速道路(阪神高速道路)

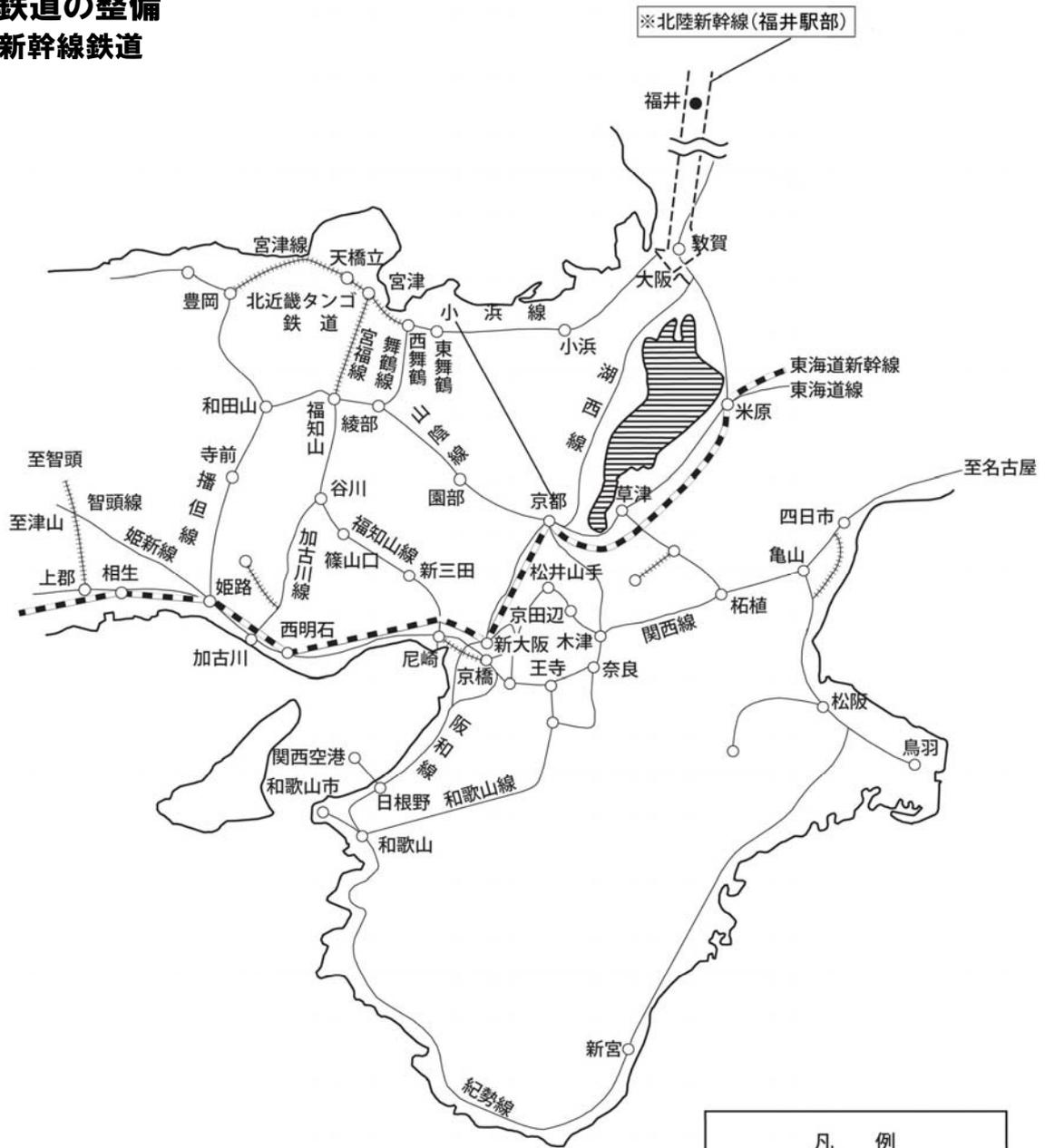


凡 例	
	供 用 区 間 (平成22年度末)
	事 業 中

平成 22 年度末時点

2 鉄道の整備

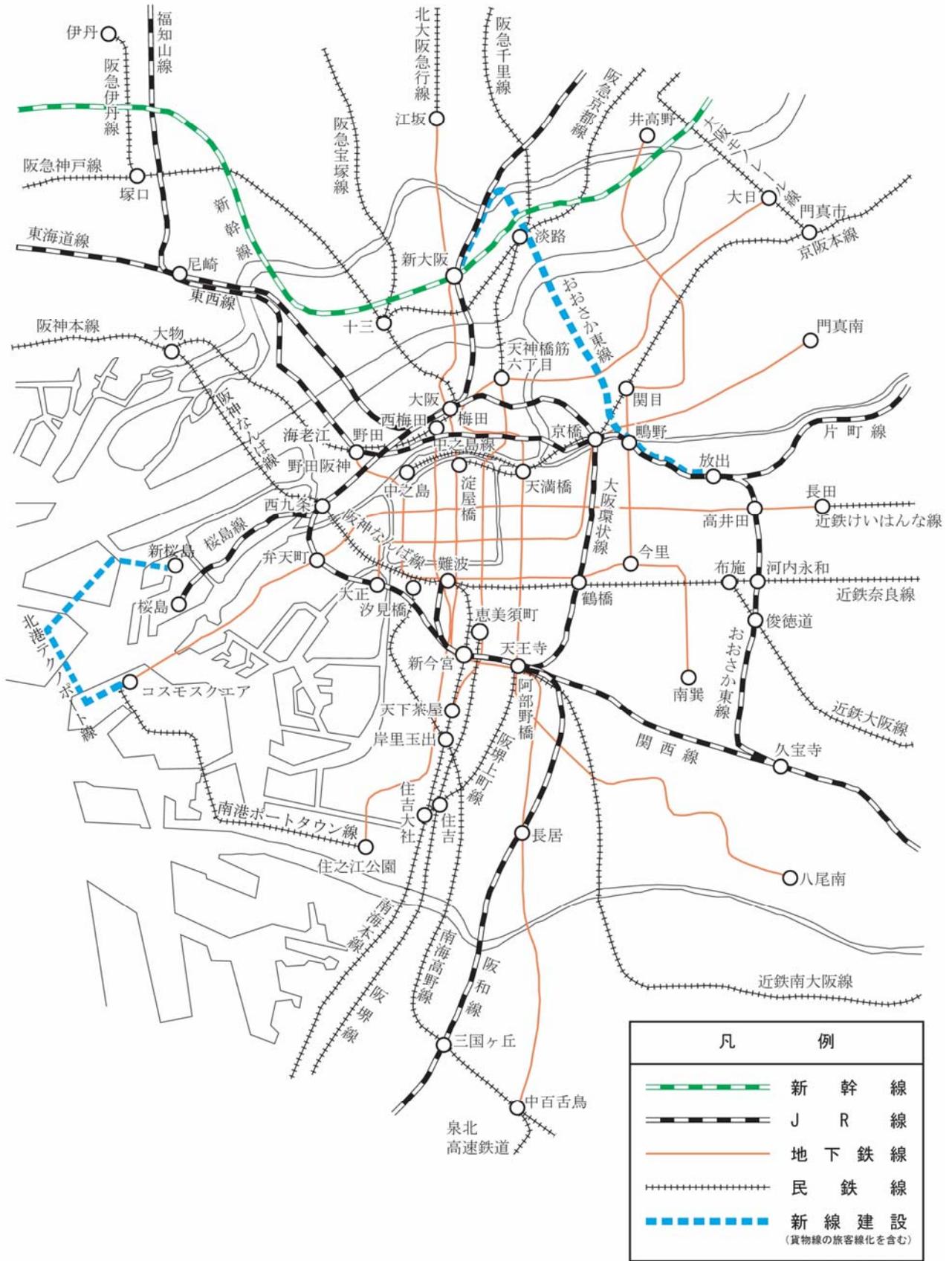
(1) 新幹線鉄道



凡 例	
-----	北 陸 新 幹 線
-----■-----	東 海 道 山 陽 新 幹 線
—————	J R 在 来 線
+++++	民 鉄 線

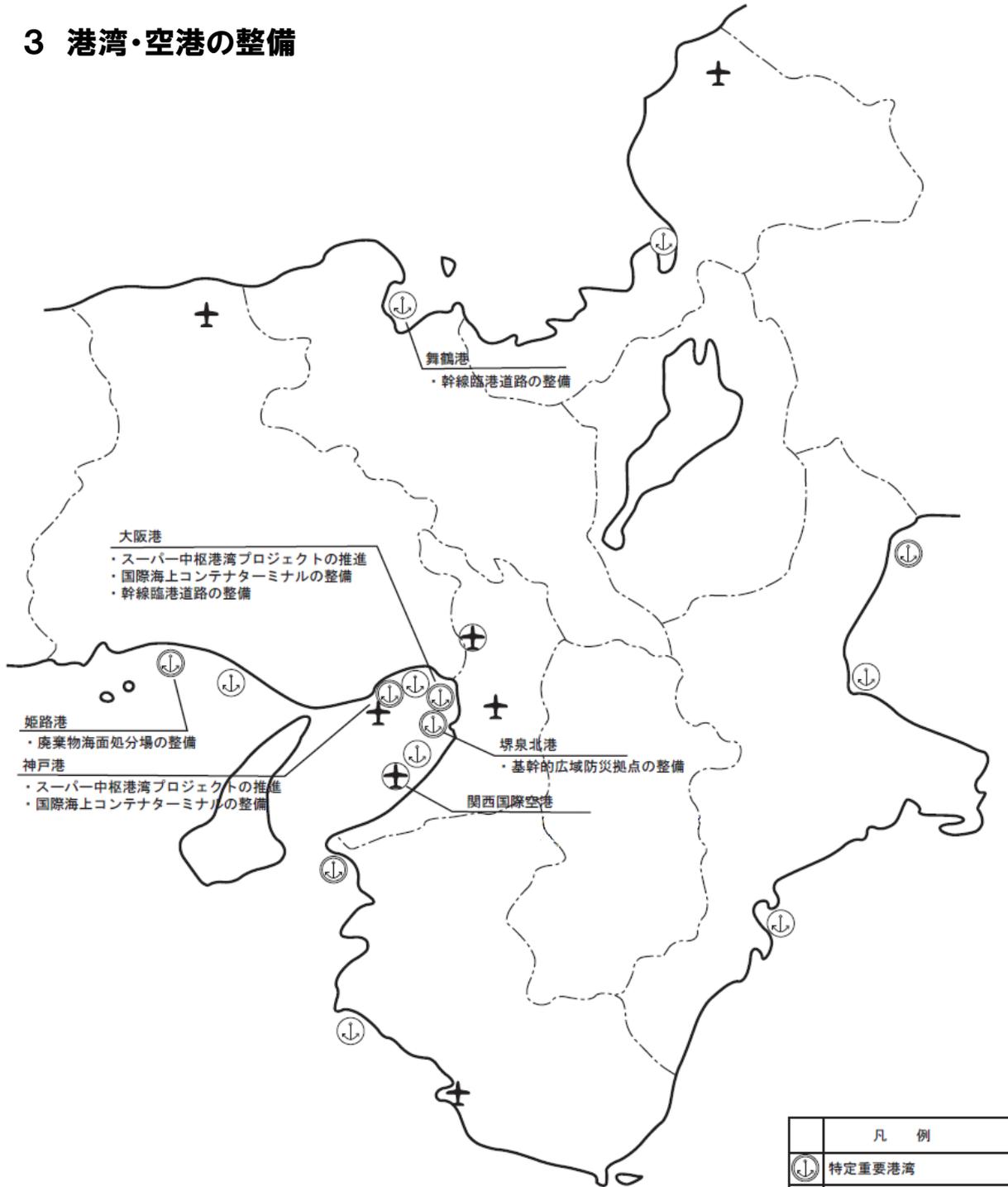
H 22年度末時点

(2)在来線鉄道等(大阪周辺)



平成22年度末時点

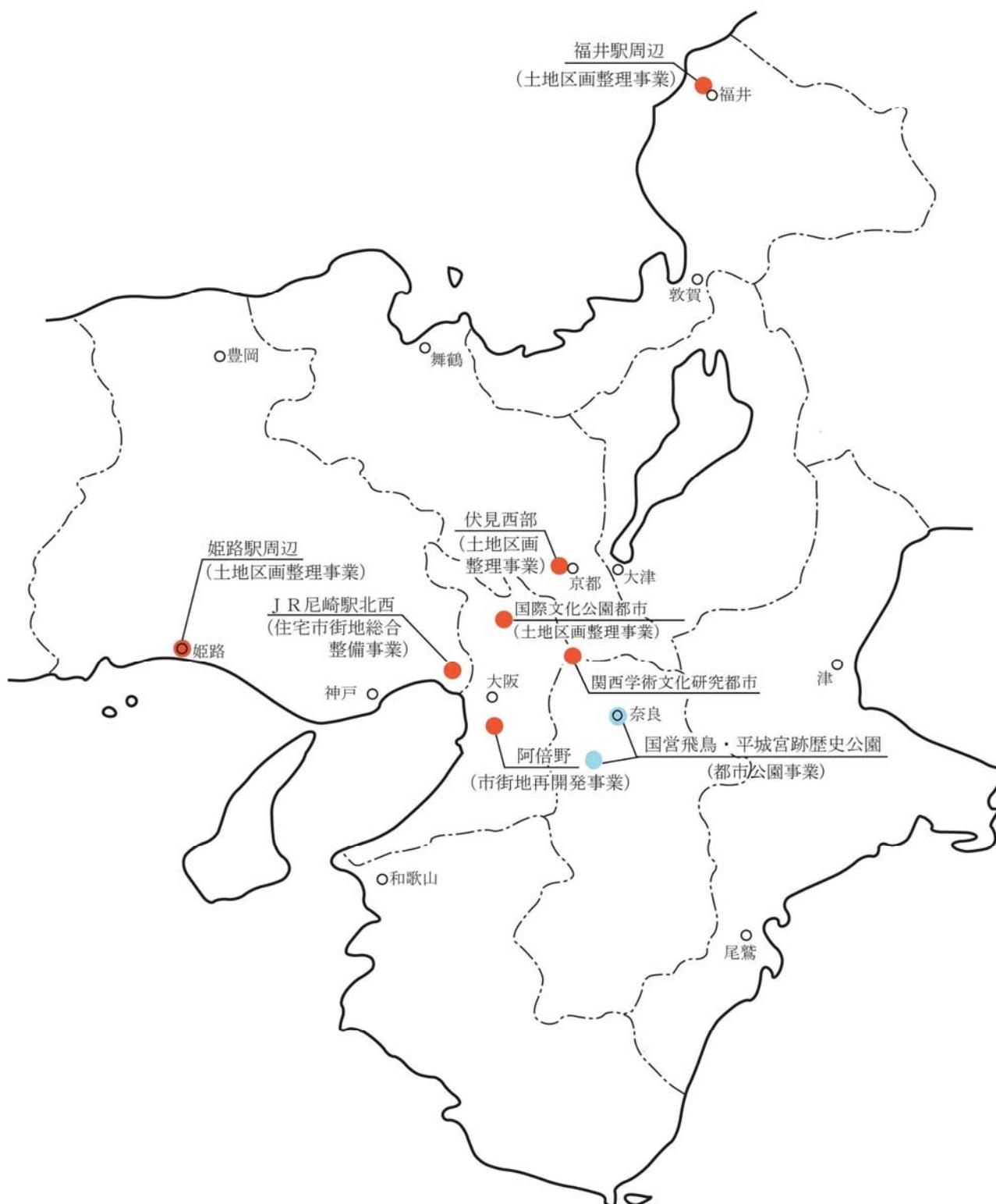
3 港湾・空港の整備



凡 例	
	特定重要港湾
	重要港湾
	拠点空港
	地方管理空港、共用空港、 その他の空港 (非公共用飛行場は除く)

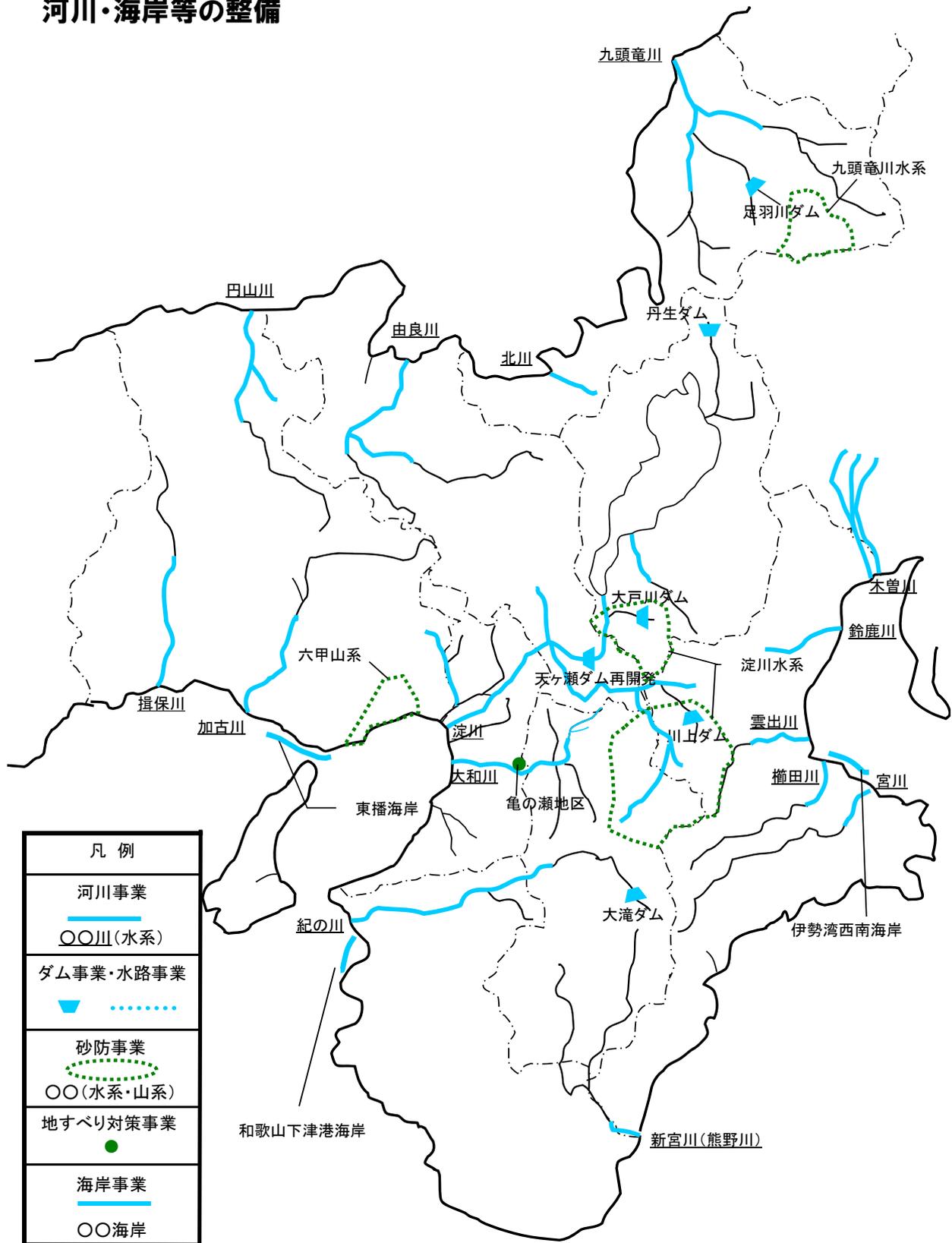
平成 22 年度末時点

4 住宅・市街地・都市公園の整備



平成 22 年度末時点

5 水資源の開発 河川・海岸等の整備



平成 22 年度末時点